

(6) 2018年(平成30年) 10月4日(木曜日)

『世界の火薬庫』といわれているイスラエルとは不思議な国である。まず不思議なのは、何回か、滅びたはずなのに、また再興したことである。紀元前6世紀には、バビロニア帝国に滅ぼされたが、70年後には、エルサレムの再建が始まった。イエス・キリストの生涯の紀元1世紀までに、何回も外国勢力の支配下に入り、キリスト誕生の頃にも、ローマ帝国の支配下にあった。1世紀末に、ローマ軍よって完全に滅ぼされた。

人が多く、歴史上の有名人がとても多い(インターネットで検索すれば、すぐに分かる)。ユダヤ人が迫害に遭い続けてきた理由は、いろいろあるであろうが、その経済力と書いた。その後、およそ4

人を含め、社会的影響力が強いことが一因かも知れない。キリストを十字架に送った民族という点も、ヨーロッパで憎まれてきた理由の一つ。宗教改革者、M・ルターは、『ユダヤ人と彼らの偽りについて』の中で、「ユダヤ

人の会堂を焼き払い、住居は破壊し、祈祷書とタルムドを没収し、パスポートを取り上げる。領主たちが好きなようにユダヤ人を扱うべきである」と書いた。その後、およそ400年後、600万人(当時のユダヤ人の3分の2)のユダヤ人を虐殺したヒトラーは、『わが闘争』の中で次のように書いた。「私は、全能の創造主のお心に沿って、ユダヤ人に対抗して自らを守り、主の業のために戦っているのだ」と。

この根深い「反ユダヤ的」な精神は、ヨーロッパの神学者たちの聖書解釈にも影響を与えてきた。というのは、キリスト(メシア)が来て、ユダヤ中心の永遠の平和の国・神の国を樹立すると旧約聖書時代の預言者たちは、度重ねて予告していたが、西欧の神学者たちは、「今やユダヤ人の出る幕はなくなった、教会の発展している今の時代が、預言者たちの書いた『メシアの平和の王国』である」と解釈してきた。キリストは、生前、また復活後も、「私は、エルサレムに再来し、全世界に永遠の平和を樹立する」と、何度も予告された。

1世紀から今日まで、福音が宣教され、キリスト教が拡大した「教会の時代」は今も続いているが、諸預言者と使徒たちの預言した「平和な全世界」は未だ実現していない。事実、1世紀から今日まで、戦争の無い時は1年もなかった。「教会の時代」は、預言者らの予告した「メシアの国、神の国」と同一ではなかったのである。やがてイスラエルをはじめ全世界に平和がやって来る。しかし、それは、国際的駆け引きによって実現するのではなく、キリスト教宣教の結果実現すると予告できるものでもない。旧約聖書・新約聖書で預言されている、キリストの再来によって実現する。『世界の火薬庫』が、『世界平和の中心』となる日が来ると聖書は予告している。

(ミッシェン・ピエホ・日本語教会牧師)

### 南加キリスト教会連合

相原 雄二

『世界の火薬庫』といわれているイスラエルとは不思議な国である。まず不思議なのは、何回か、滅びたはずなのに、また再興したことである。紀元前6世紀には、バビロニア帝国に滅ぼされたが、70年後には、エルサレムの再建が始まった。イエス・キリストの生涯の紀元1世紀までに、何回も外国勢力の支配下に入り、キリスト誕生の頃にも、ローマ帝国の支配下にあった。1世紀末に、ローマ軍よって完全に滅ぼされた。